

平成30年度 学校自己評価アンケートまとめ

◇保護者アンケートから見えてきた課題

1. 保護者アンケート結果（12月実施）

(1)「学校の重点」に関する保護者アンケート（%）

A当てはまる Bだいたい当てはまる Cあまり当てはまらない D当てはまらない Eわからない

	年度	A	B	C	D	E
①教材を工夫したり学び合いの場を設定する等、わかりやすい授業作りに努めている。★	28	24	52	6	3	15
	29	20	50	8	3	19
	30	21	52	8	1	17
②自分の言葉で語れる活動の充実を目指し、友だちとのかかわりを大切にする授業づくりに務めている。	28	28	50	8	1	13
	29	23	53	7	2	14
	30	24	54	5	4	12
③家庭学習の「習慣化」から「質の向上」を目指し、生徒一人一人が求める指導に取り組んでいる。★	28	19	45	20	6	10
	29	17	41	23	5	15
	30	21	45	18	4	12
④生徒授業評価アンケートや、一人一公開授業研究会を実施するなどして、授業改善に取り組んでいる。	28	28	50	5	1	16
	29	17	41	12	3	27
	30	23	48	9	1	19
⑤明倫の心を基盤に、学校内外での挨拶、履き物そろえ、時間厳守など、けじめのある生活ができるように取り組んでいる★	28	55	37	4	1	3
	29	41	47	7	2	3
	30	44	43	7	1	4
⑥生徒が学級活動・生徒会活動・部活動に精一杯取り組み、それぞれのよさを発揮している。	28	55	39	3	0	3
	29	50	37	7	3	2
	30	52	38	6	1	2
⑦人権・道徳・性教育の授業等を通して、命の教育に取り組んでいる。	28	37	52	5	0	6
	29	27	44	13	6	11
	30	37	50	5	2	5
⑧教育相談や進路相談を含め、生徒の思いを汲み取る活動がなされ、一人一人の生徒が大切にされている。★	28	31	44	13	2	10
	29	24	43	10	7	16
	30	37	48	7	3	5
⑨必要な生徒に対し、担任・学年職員・相談員等及び外部機関と連携して、チームによる支援が行われている。	28	27	43	7	3	20
	29	19	37	8	7	29
	30	25	43	8	2	22
⑩地区生徒会と自治会・公民館との連携・協力を計画的に進め、生徒の地域行事への参加を推進している。	28	30	51	11	3	5
	29	31	47	12	3	7
	30	28	49	14	4	5
⑪キャリア教育や二中フォーラム、二中祭、学活総合などを通し、地域に学び、その学びを地域に発信している。★	28	52	39	4	1	4
	29	48	37	7	0	8
	30	47	42	4	2	4
⑫グランドデザインを公表したり、学校・学年・学級通信を発信したりして、各種情報を家庭・地域に提供できている。	28	40	50	5	2	3
	29	36	41	11	3	9
	30	35	49	10	0	5

(注…「★」は平成30年度の「考察する上での重点項目」)

回答数 206 回収率 72%

(2) 保護者アンケート「項目別集計」の結果より～成果と課題

- 1 「12月実施：保護者アンケート」の結果をみると、全体的に落ち込んだ昨年度に比べ、数値は回復しつつあり、やや向上している項目が多い。しかし2年前の28年度の数値には未だ届いていない。重点項目の実施状況において、職員全体が自身授業や学級経営をふりかえりつつ、常に教科会、学年会、職員会で話題にし、研鑽に努めていかねばならない。
今後は「テーマ別の職員研修」や「ベテラン教師から学ぶ会」などの実施も考えていく。
目の前の校務分掌や部活指導に尽力されている職員も多いが、自分たちが生徒と共に現在の、そしてこれからの二中をつくっていくのだという意識が更に必要である。
- 2 項目③の家庭学習については3年間で「評価A」が向上したが、引き続き「評価C」も多い。
また、保護者の記述が特に多いのもこの項目であり、学習面でのサポートについて強く要望がでている。具体的には、テストの得点が伸び悩んでいることに対する支援、家庭学習の具体的な内容や学習の仕方なども保護者に伝えていくとともに、指導の在り方などさらに検討していきたい。
- 3 項目⑤については、昨年度より「評価A」の数値が向上しているが、「評価A」「評価B」の数値がほぼ同等であり、逆に課題と捉える必要も感じる。全校生徒、職員共に「明倫の心」－敬愛・窮理・実践の本来の意味を再度問い直し、理解する機会が必要である。
- 4 項目⑦がV字回復した。ブロック人権や全校研究授業などの効果もあるほか、各学年の発達段階や学習状況、生徒の実情に応じたカリキュラムを学年会で深く検討・教材化し、実践した結果であると思われる。前年度踏襲的な内容からの脱却を図った成果であると考えられる。
- 5 項目⑧はV字回復をしている上に、ここ3年間において最も「評価A」の数値が高い。短縮日課を増やし、清掃をカットするなどの工夫も取り入れながら時間を確保したことで、各担任が個々の生徒に丁寧に教育相談をおこなうことにつながった。また、教育相談を生徒指導発一生徒指導着の形態に捉え直したことで、相談カードの生徒のコメントの気になる点について、職員全体が共有したり対応したりすることが速やかにできるようになったことも成果につながった。
- 6 項目⑩⑪は3年間で最も「評価A」の数値が低い。今年度は生徒会の「つながりプロジェクト」、複数講座を一新した二中フォーラムをはじめ、魅力的な取り組みもいくつか見られた。また、学年通信や学級通信も各学年・担任から定期的に発行され、現在行っていることを伝えるようにしている。しかし、学活や総合での学年独自の取り組みが学校全体のカリキュラムとつながっていないこと、生徒会活動や授業で学んだことが人の生き方、将来への指針、自己肯定感を向上させるものとして生徒自身に十分落ちていない現状も考えられる。
これらのことは、①から④の「評価E」項目が比較的多いことにも関連しているのではないかと。学校側が魅力ある取り組みであると思っていることでも、その取り組みが明確に伝わっていないという現状があるのではないかと。生徒にとって、今やっている活動が、「やらされている」ものではなく、今後の自分の生き方にどのようにつながっていくのか、そしてその活動が将来何の役に立つのかということを含め、全ての教育活動につなげ、強調していくことが更に求められているのではないかと。今年度、人権教育の授業公開や全校研究授業など等の取り組みや、職員全員で取り組んでみたその結果が本時に生かされた結果がアンケートの数値にも読み取れるように、教科横断的な内容を授業に仕組み、異年齢の活動、地域とつながる活動をさまざまな側面から考え出すなどし、実行に移していきたい。それが「明倫の心」についての理解と実践につながっていくのだと思う。